

令和7年度 誘導加熱技術部会見学会「日本製鉄株式会社 九州製鉄所・八幡地区」見学記

- 1.日 時：令和7年10月10日（金）13:20～15:00
- 2.見学場所：日本製鉄株式会社 九州製鉄所・八幡地区
- 3.説 明 者：日本製鉄株式会社 九州製鉄所 総務部 八幡庶務室 広報サービスセンター 本田 様
- 4.出 席 者：20名（事務局3名含む）
- 5.概 要：

今年度の技術交流・見学会について、誘導加熱技術部会では北九州工業地帯の有力工場を見学しようという希望が出されたため、9日に“安川電機ロボット村”を見学し、10日午前中に九州電力殿北九州支社の会議室をお借りして第94回の技術部会を開催、午後“日本製鉄九州製鉄所八幡地区”を見学する計画を立て、実行した。

10日13時に小倉駅北口バス乗り場に集合し、マイクロバスで九州製鉄・八幡地区に向かった。広大な製鉄所内はこのマイクロバス乗って見学した。

九州製鉄所・八幡地区は13の製鉄工場を7地区にまとめたうちの一つで、小倉・戸畑・八幡・豊前のエリアで構成されている。今回見学したのは最も広く高炉がある戸畑エリア。八幡地区全体では約1,111万平方メートル、福岡PayPayドーム159個分だが、そのうち戸畑エリアは約700万平方メートルを占める。製鉄所の入り口となる飛幡門は1日1万台の車両が通過、敷地内には職員などの移動用バスが複数台運行されており、ガソリンスタンドも設置されている。また、資材製品等輸送用の鉄道線路は延べ120キロメートルに及ぶということ。大きな街であり、見学はバスを利用しないととてもできないことが判る。

最初にホールで日本製鉄全体の沿革から地区で生産する製品の説明、DVDによる製造工程や製品、鉄の用途の説明などを受け、「世界は鉄でできている」というフレーズが印象に残った。戸畑には地区に唯一残る第4高炉が操業しており、自動車用鋼板、電磁鋼板、軌条、ステンレス厚板、スパイラル鋼管などの製品になる母材を送り出している。最後に環境保全に対する取り組みの説明があり、水は90%循環、副製ガスは100%利用、その他の材料は80%再利用というハイレベルなものであった。

ホールで説明を受けた後、全員バスに乗り込み敷地内を移動、見学した。車窓からスパイラル鋼管ヤード、連続熱間圧延工場、冷間圧延工場、ENEOSのガソリンスタンドを見ながら戸畑第4高炉に到着、高炉建屋を上って見学した。ちょうど四つの羽口の一つを塞ぐ工事をしている、中々見ることができない迫力のある工事の様子を目の当たりにすることができた。しかし、日産10,500トンのこの高炉も2029年度下期を目途に電炉プロセスに転換されるということであり、感慨深かった。

再度バスに乗り込み、ステンレスを製造する第1製鋼工場、連続鋳造スラブと軌条用鋼片を作る第3製鋼工場のそばを通り、熱間連続圧延工場に到着した。建屋内の3階くらいにある見学通路から、オレンジ色のスラブが多段、多数のロールによって水で冷却しつつ圧延される工程を見学した。輻射熱で結構暑いのだが、暑さを忘れるほどの迫力ある工程で、ラインに組み合わされた大型機械が高精度に制御されていることに感銘を受けた。建屋を出たところには鋼板コイルヤードがある。ヤードに運んでは500℃もの高温で、二日くらいかけて冷ますとのこと。ヤードの前には1億トン生産記念コイル（昭和63年7月22日到達）などが展示されていて、その前で記念写真を撮影した。

再度バスに乗り込み、戻水場（90%リサイクルで1日210万トン）、全天候型バースを有する岸壁などを車窓に見て、最初の飛幡門を通過してホールの建物前に戻り、説明して下さった本田様とお別れし、小倉駅に向かった。

委員全員、「世界は鉄でできている」その鉄づくりの大規模でかつ高精度な技術を体感できたことに満足し製鉄所を後にした。



写真1 ホールでの説明



写真2 記念圧延コイルの前で